

那須野が原博物館 中期目標項目・評価シート
第2期(平成29～令和4年度)

令和4年度

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標		4年度目標値(6か年)	期間実績合計	4年度目標値	4年度実績	備考
1. 収集・保存・活用								
1-1 資料の収集	収集方針をもとに採集・寄贈・購入等を通して積極的かつ継続的に資料を収集します。	新規収集資料件数	採集・購入他(全分野)	1,752件	3,483件	292件	76件	
			1.歴史	480件	314件	80件	16件	学校関係資料、塩原温泉関係資料ほか
			2.民俗	30件	49件	5件	0件	
			3.考古	0件	0件	0件	0件	
			4.美術	12件	21件	2件	2件	日本画
			5.文学	30件	42件	5件	10件	塩原関係作品・原稿ほか
			6.地学	60件	44件	10件	4件	化石・岩石
			7.植物	180件	1,351件	30件	0件	
			8.昆虫	900件	1,472件	150件	41件	甲虫ほか
			9.動物	60件	190件	10件	3件	オオタカ・オオルリ・ドブネズミ
			寄贈(全分野)	—	11,831件	—	1,509件	歴史281件、民俗6件、美術14件、文学75件、昆虫1,133件
			合計	—	15,314件	—	1,585件	
		収蔵資料総件数		—	93,524件	—	93,524件	R5.3.31現在 歴史26,739件、民俗6,178件、考古4,284件、文学174件、美術3,993件、地学703件、植物6,400件、動物45,053件
		新規収集図書件数	購入	180件	113件	30件	21件	
寄贈	—		—	—	343件			
収蔵図書総件数		—	17,963件	—	17,963件			
1-2 資料情報の公開	収蔵資料データベースの公開を行い、研究者等による利用を促進します。	収蔵資料情報公開件数		6,000件	9,797件	1,000件	2,134件	実績：歴史1,277件、昆虫857件 総公開件数：35,838件

1-3 資料の適切な管理	収蔵庫・展示室を良好な環境に保ち、燻蒸により資料の安全な保存を図ります。	燻蒸回数	那須野が原博物館	6回	6回	1回	1回	
			附属施設	6回	6回	1回	1回	旧日新の館
	資料の修復等を行い、資料の保存状態を改善します。	資料の修復	歴史資料	30件	27件	5件	0件	
			考古資料	18件	7件	3件	0件	
			美術資料	30件	19件	5件	3件	
	1-4 資料の活用	常設展示・企画展示等による資料の利用・公開を促進します。	展示利用数	常設展示	—	—	—	1,027件
企画展示				3,000件	4,030件	500件	651件	現在美術展46件、トンボ展489件、きのこ展24件、学校展92件
トピックス展他				900件	2,787件	150件	287件	トピックス展123件、なはくAS48件、日本遺産45件、図書館23件、ギャラリー展48件
黒磯郷土館				—	2,070件	414件	414件	
日新の館				720件	245件	120件	0件	H31.3.31施設廃止
関谷郷土資料館				—	1,440件	720件	0件	H31.3.31施設廃止
収蔵資料を他の博物館・美術館等へ貸し出します。		貸出資料数	—	330件	—	21件	化石6件、歴史15件	
【特記事項】		新規収蔵資料は、美術・文学以外の分野で目標値を下回った。購入資料は、限られた予算の中で目標値を達成するのが難しい状況となっている。採集資料は、野外調査にかかる時間の確保が難しいことが課題である。寄贈資料は、歴史(学校関係資料171件、戦争関係資料22件、国体関係資料41件ほか)・民俗(電化製品2件ほか)・美術(竹工芸5件ほか)・文学(三島章道関係資料75件)・昆虫(甲虫ほか1,147件)の受入れを行った。資料の公開については、歴史(那須開墾社関係文書1,277件)・昆虫(ハチ類857件)において実施した。資料の修復については、美術分野で日本画3件を実施した。資料の活用については、全体的に目標値を上回った。トピックス展他には、博物館における展示だけでなく、那須塩原市図書館との連携展示での利用数も含んでいる。収蔵資料の貸出先は、ミュージアムパーク茨城県自然博物館・栃木県立博物館・久米美術館である。						
【課題・改善点等】	資料の収集は、今後も採集・購入・寄贈等により継続的に収集していく必要があるが、収蔵庫のスペース不足に伴う資料の安全な保存環境や予算、資料収集にかかる業務時間の確保が重要な課題となっている。資料の修復は、優先順位をつけて計画的に進めていく必要がある。資料の公開については、このたびの博物館法改正でもインターネットを活用した資料のデジタルアーカイブ化及びその公開が求められているため、今後も積極的な情報の公開に努める。資料の活用については、引き続き企画展示やトピックス展、なはくアトスポット等において、収集した資料を積極的に利用・公開していく。							

<p>資料の収集については、コロナ禍における限られた予算の問題や人手不足による採集資料の問題など、博物館を取り巻く厳しい現状は理解するが、コロナ禍から平常に戻りつつある今年度からは、予算確保や適性人員の配置に努められ、博物館本来の資料収集活動を積極的に行っていただきたい。資料情報の公開は、収蔵資料デジタルベース化と資料のデジタルアーカイブ化を進め、これまで以上に公開に努められ、さらなる研究者等による利用を促進していただきたい。また、資料の管理については、収蔵庫のスペース不足から、適切な保存が難しい状況にあることを大変危惧している。</p> <p>資料の活用については、全体的に目標値を上回ったことや収蔵資料の県外他への貸出があったことについては評価したい。市図書館と連携展示は大変好評であり、今後も続けていただきたい、図書館との連携による博物館への誘導の可能性にも期待したい。</p>							
2. 調査研究							
2-1 調査研究活動の推進	地域に関するテーマや博物館活動に関する調査研究を行います。	那須野が原博物館紀要発行回数	6回	6回	1回	1回	
	研究成果を広く市民に還元します。	学術論文の執筆数、発表会や講演会の回数	60回	111回	10回	17回	論文5件、発表1件、講演11件
【特記事項】	那須野が原博物館紀要第19号を発行した。紀要の掲載内容は自然分野が5件(地質1件・昆虫2件・動物1件・植物1件)、人文分野が1件(歴史1件)である。論文は、紀要で3件(昆虫・動物・歴史)、研究会誌への寄稿で2件(歴史)執筆した。発表は、地域研究発表会で1件(動物)で行った。講演は、講義形式で9件(歴史6件、昆虫1件、動物2件)、見学会形式で2件(歴史)行った。また、学術情報検索サイト「J-STAGE」において、那須野が原博物館紀要第18号の掲載論文を全て公開した。						
【課題・改善点等】	業務における調査研究活動の時間の確保と計画的な遂行が必要である。調査研究成果の公表のために、今後も紀要の発行及び発行後1年が経過した紀要掲載論文の公開を毎年実施する。那須塩原市で実施している動植物実態調査や地域研究者等と協働・連携を図り、地域の解明に努めたい。紀要の投稿者の確保が課題となっているため、外部への積極的な声掛けを行う。また、他の博物館をはじめ社会教育施設と連携し、研究成果公表の機会拡大を図る。デジタル化が進む近年のニーズも踏まえ、研究成果の還元方法は、従来の発表会や講演会に限らず、ICTを用いた発表の場も積極的に活用していきたい。						
【外部評価委員 所見】	今年度も、収まってきたとはいえ、新型コロナウイルス感染症が続いている状況下であり、調査・研究へも、その影響がまだまだ及んでいることは、非常に残念である。 しかし、その中でも発行が行われた紀要の存在は、那須地域を中心とした調査・研究の発表の場として、大きな意義があると思われる。特に今回は、セミやカエルなど身近な自然からの題材の発表が見られたことは、大いに興味を持てた。今後も継続・発行を期待したい。						
3. 展示							
3-1 常設展示の充実	常設展示の内容や展示資料の見直しを図ります。						現代美術作品の展示(なはくアートスポット12回)
3-2 企画展示の開催	地域または各テーマに対する市民の理解を深める目的で開催し、資料を有効に活用します。	企画展示の開催回数	204	20回	4回	4回	
		企画展示の観覧者数(学校を除く)	105,000人	100,929人	15,000人	15,181人	H29 30,000人/年 H30～ 15,000人/年
		観覧者の満足度(平均)	90%	95%	90%	95%	現代美術展96%、トンボ展97%、きのこ展95%、学校展93%

【課題・改善点等】	<p>今後、学校見学は、必要最小限の新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、小学3年生・4年生の受け入れを継続させていくこととなる。受け入れについては拡大するとともに、実施方法にはコロナ禍でのメリットを生かした形で工夫をしていく必要がある。出張授業や資料の貸出を充実させて利用者増を図っていききたい。小学3年生の見学においては、新たなメニューで実施をしたが、内容を検討しつつ活動を充実させて、利用する学校の満足度向上、及び来館校増につなげたい。</p>
【外部評価委員 所見】	<p>5-1市民との協働 新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴い、今後、市民との協働の場も徐々に復活していくことと思われる。すぐにコロナ禍以前に戻ることは難しいと思われるが、根気強く情報提供や活動の成果を伝えて行く活動を続けていくことが必要かと思われる。 当館のエントランスホールは、常に整理され、展示されているものは見やすく、展示している団体の特色が現れている。博物館を身近に感じることができる場所であり、ますますの活用を図っていききたい。ただ、市民のほとんどがエントランスを利用できることが知らないのではないかなと思う。活用を促すような表示、広報への掲載、チラシの配布による周知をすれば利用が増えるのではないかなと思う。</p> <p>5-2地域との連携及び学術的な支援 コロナ禍でも文化、芸術、動植物、自然環境等でのニーズに合わせ、様々なサポートが進められたおりすばらしいと思う。新型コロナウイルス感染症5類引き下げに伴い、徐々にコロナ禍以前の活動ができるようになってくると思う。コロナ禍でできなかった活動はもとより、SDGsなどの新たな課題に対する活動などについても積極的なサポートをお願いしたい。</p> <p>昨年と比べ多くの連携が図られてきたが、目標からするとまだまだであるものの、今後大いに期待できる。地域の連携や支援は、博物館の大事な要素である。コロナの影響が続くと思われるが、さらなる努力を期待したい。</p> <p>5-3学校教育との連携 新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴い、学校の教育活動もコロナ禍以前の活動が復活してくると思う。まだまだ基本的な感染症対策や人数制限等が必要な場合もあると思うが、本博物館でなくては得られない実感を伴った貴重な体験やお話、豊富な資料があるという強みを生かし、様々なイベントや企画を考え、本物を見たり聞いたりできる感動をぜひ子どもたちに味わせていただきたい。学校でも、「ギガスクール構想」が推進され、一人一台のタブレットが支給され、積極的な活用が図られている。タブレットの操作能力＝学力と捉え、いつでもどこでも調べ学習や学習のまとめに活用できる能力の育成に努めている。直接の体験や見学活動とこのICT化がうまく関連すれば、児童の学びはさらに深まるのではないかなと感じている。コロナ禍以前からも様々な試みを行っていただいているが、ぜひ今後とも学校と協力・連携しながら、さらに柔軟な対応を模索していただければよいのではないかなと思う。さらに、前にも記載したが、学校でもSDGsなどの新たな取り組みについて、教育活動に位置付けようという動きが高まってきている。このような視点からも那須野が原の地域学習がどのようにSDGsの取組と結び付いているかなどについても示唆していただけるとよいと思う。</p> <p>学校数の減少の下、コロナ禍での連携は難しいものがあつたと思うが、博学連携は教育効果から見ても有効なものであり、推進したいものである。コロナ明けによって来館する学校はかなり増えると思われるが、博物館側からの出張授業はもちろん、学校を訪れての日常のPRや案内等も入れていけたらよいと思う。</p> <p>5-4実習等の受け入れ 新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴い、中学生のマイチャレンジなども徐々にできるようになってくると思う。生涯学習やキャリア教育の観点からも、那須野が原の文化、芸術、自然環境の素晴らしさを子供たちに伝えとともに、博物館の人々の仕事内容ややりがい、夢などについても子供たちにわかってもらえるような啓発資料があるとよいのではないかなと思っている。中学生だけでなく小学生も高学年になると自分の将来の夢ややりたい仕事について自分なりの考えをもつようになってくる。自分が住む地域の素晴らしさに気付く、さらに地域にはこんな素敵な仕事をしている方々がいると気付かせることも本博物館の重要な役割なのではないかなと思う。</p> <p>博物館実習生が5人というのは、よかったと思う。これからの博物館の力になってゆくと期待したい。実習生一人一人の個性やニーズが違ふと思われるので、それぞれに合わせた指導をしてほしい。また、今後、実習生が増えることで、博物館の活動がさらに広がることを期待している。</p>

6. 施設の管理運営							
6-1 施設の維持管理	快適な環境の保全に努めます。	保安、清掃及び維持管理業務の実施、計画的な機器の修繕・更新					
6-2 危機管理体制の強化	防災訓練や救急救命講習等を実施し、危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施回数	12回	12回	2回	2回	
		救急救命講習の実施回数	6回	2回	1回	0回	
6-3 施設の整備	高齢者、障害者及び外国人等へ配慮した施設の整備に努めます。						実施なし
6-4 収蔵施設の増設	収蔵庫の拡充を図り、収蔵資料の適切な保存に努めます。	収蔵庫の増設					実施なし
6-5 附属施設活動の充実	附属施設(黒磯郷土館・日新の館・関谷郷土資料館)の特徴を活かした活動を展開します。	黒磯郷土館来館者数	10,000人	7,131人	2,500人	1,131人	
		黒磯郷土館来館者の満足度(平均)	90%	95%	90%	93%	
		日新の館来館者数	9,600人	1,926人	1,600人	—	H31.3.31施設廃止
		日新の館来館者の満足度(平均)	90%	81%	90%	—	
		関谷郷土資料館来館者数	78,000人	26,011人	13,000人	—	H31.3.31施設廃止
		関谷郷土資料館来館者の満足度(平均)	90%	96%	90%	—	
6-6 組織運営	組織の適正な人員配置を行い、効率的な運営に努めます。						
6-7 意識改革と資質の向上	研修会等に積極的に参加し、職員の能力開発、資質向上に努めます。						
6-8 広報体制	各種メディア等への情報提供を積極的に行います。また、ホームページを充実し、認知度の向上を図ります。	マスコミ・メディア等の掲載回数	240回	157回	40回	30回	
		ホームページの閲覧回数	660,000回	674,361回	110,000回	167,014回	
6-9 博物館評価	使命、方針及び中期目標に基づいて評価を行い、博物館活動の改善に努めます。						

【特記事項】	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、感染症対策として、サーモグラフィーカメラや飛沫防止パーテーション、アルコール消毒液の設置、清掃・消毒の徹底、入場制限等を前年度から継続して実施した。事前に中止を決定していた事業以外はほぼ実施できた。</p> <p>旧日新の館は、博物館資料の一時的な仮収蔵施設として継続して利用、燻蒸を実施しつつ適切な管理に努めている。博物館においては、Wi-Fi環境の整備を行うとともに、適切な施設管理を図るために、博物館の冷温水発生機の修繕、中央監視盤のバッテリー交換、給湯器流し台の修繕を実施、黒磯郷土館においては誘導標識の設置、消火器の交換など実施した。館内施設の利用率向上の一環として体験学習室に設置した簡易的なキッズスペース「なはくルーム」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため引き続き閉鎖とした。収蔵施設の増設については、実現にはいたっていない。</p> <p>人員では、1名の減のままであるため、再任用職員にも対象を広げ引き続き職員の補充を要求していきたい。</p> <p>メディアの掲載件数は、昨年度に比べ187%となった。教育普及事業が概ね実施できたことが主な要因と考えられる。</p> <p>ホームページ閲覧回数は、前年度比116%で大幅に増加した。みるメールやツイッターで企画展や教育普及事業を紹介し、3月末までに計164回配信し、ツイッターの閲覧件数は132,169件であった。</p>
【課題・改善点等】	<p>救命講習については、未実施となってしまうので、機会をとらえて講習会へ参加を進めたい。施設設備については、冷温水発生機において経年劣化による大規模修繕が必要となり、今後様々な設備で大規模修繕が出てくるので、計画的に実施していく必要がある。</p> <p>情報発信については、Twitterでこまめに情報発信をし、みるメールにおいて登録者にダイレクトに情報を配信するなど、積極的に広報活動を実施したので、より効果的な情報発信の方法を検討しつつ継続していきたい。</p>
【外部評価委員 所見】	<p>施設の管理運営は、博物館活動を行う上でのベースとなる重要な部門である。新型コロナウイルス感染症対策については、事業等での受講生の反応も見ても、十分な対応をしてきたと認識している。危機管理体制としては、防火と救命救急があり、ぜひ救命救急講習会は実施していただき、職員の意識と技術の向上に努めていただきたい。施設の維持管理については、開館から20年近くが経過し、課題・改善点等でも述べられているように、今後大規模改修が出てくるといふ指摘のように、機械類の総点検とともに、躯体の点検や外構の施設の点検も併せて行い、施設を維持管理していく観点と共に来館するお客様の安全を確保していただきたい。また、広報体制としては、ホームページやツイッターの閲覧回数は大幅に増加していることは評価したい。ただ、メディア等への掲載については、前年度よりは大幅に増加したが、目標値には届いていない。企画展等については掲載されるが、講座やイベントでの掲載が少ないように思われる。講座一つ一つにこまめに掲載依頼をかけて、掲載に繋がることを期待したい。</p> <p>最大の課題は収蔵庫の増設である。資料が未来へ繋げる貴重な財産であり、博物館の存在意義もここにある。粘り強く進めていただきたい。併せて、職員が減っていることは、今後の博物館の発展を著しく阻害するものであり、庶務管理職員がいないことは、学芸系に悪影響を及ぼし全体として活動を鈍化させることとなる。収蔵庫の増設と職員の復活は、早急なる実現を強く要望するものである。</p>

<p>【外部評価委員 総合所見・指摘事項】</p> <p>令和4年度も、長期にわたる新型コロナ感染症対策の中、来館者が安心して見学・活動できる設備対応を的確に実施し、滞りなく運営・活動が行われたことを評価したい。</p> <p>今後は、コロナ禍で変化した市民の地域意識や文化意識を把握しつつ自然系と人文系のバランスを図り、アフターコロナや持続可能社会に対応した展示・教育講座・地域連携・市民協働活動等の在り方を再構築していただきたい。さらに、コロナ禍で低下した資料収集・調査研究やきめ細かい広報活動を間断なく行い、資料の価値や評価を落とすことなく遠退いた利用者への周知・啓発、および、矢継ぎ早に出された文化財保護法・博物館法の改正に順応できる運営・活動の在り方も考えていただきたい。</p> <p>日本遺産認定による関連文化財や策定された那須塩原市文化財保存活用地域計画の市民への周知・啓発なども、博物館の運営・活動に重きを成すであろう。なおかつ、コロナ禍で浸透しつつある情報機器の利用・活用の多様化・拡大による業務の多忙化が懸念される。当館の使命と方針との整合性を図り情報機器の功罪をよく分析し、博物館が持っている本物を実感できる感動や知的好奇心を涵養する機能を疎外しないよう配慮していただきたい。特に、高機能化している情報機器の利用・開発や改正博物館法が求めている文化観光対応などに学芸員が関わるとなると、本来の博物館機能が損なわれるのは必至である。そうならないために、地域に開かれた博物館を目指す当館にあっては、多岐にわたる業務を円滑に進める庶務担当の職員は絶対に必要である。是非とも復活していただきたい。</p> <p>そして、創設20年による経年劣化対策の施設点検・整備は当然ながら、気候変動期にあって大災害が恒常的に起きている状況下、未来につなぐ貴重な資料収集・保存を担う博物館の存在意義を市民に知らしめる収蔵庫増設も急がなければならない。早急の実現を強く要望する。</p>

【博物館の対応】

令和4年度は、コロナ禍においても教室講座や企画展は、ほぼ計画どおり実施することができた。資料の収集や調査研究も継続して実施できた。調査・研究においては、紀要の発行を継続的に行うことで、資料の記録化を継続していくとともに成果を市民に還元することが重要と考えている。調査については、各分野ごとに個々に進めているのが現状である。SNSを活用した情報発信を推進し多くの市民等に様々な博物館の情報を提供することができた。また、コロナ禍で始めた那須文化セミナーの映像配信も継続して実施し、好評を得ることができた。

博物館関連団体においては、コロナ禍での活動の活性化等が急務であることから、感染症対策を実施しつつ活動できる方法を団体と協議して事業を実施してきた。学校見学の対応については、感染症対策を実施しながら、できるだけ多くの学校を受け入れるようにしてきた。学校側も積極的に校外活動を進めていたこともあり、来館する学校数は多かったが、コロナ禍以前の学校数まで回復はしなかった。。小学3年生については、新たなメニューを開発し見学対応、新たな体験メニューも導入したところ学校には概ね好評であった。資料の貸出しや出張授業についても、一定程度の需要はあったので、さらに充実を図っていきたい。

現在、新収蔵庫の建設が難しくなっている現状をふまえ、随時収蔵庫のスペース確保を実施しつつ資料の収蔵を進めているが、根本的な解決には至らない。新収蔵庫の必要性を訴えていくとともに、有効な方法を模索していきたい。また、博物館の人員体制についても十分なものではないことから、人員の充実についても継続して要望をしていく。

外部評価委員

令和5年度那須塩原市那須野が原博物館協議会委員

谷田 恵一

金井 忠夫

高根沢広之

後藤 英雄

木村 康夫

大塚 好一

月井 誠一

松村 雄

千葉 昭彦

君島 章男